



人間国宝の中野孝一さんよりご寄贈いただいた
「水指白侘助」

ごあいさつ

平成 29 年 3 月 6 日

暖かい日差しが差し込む日が少しずつ増えているように感じます。現在建設中の文化交流拠点施設も工事が進み、分厚いコート脱ぐように、東側のフェンスが取り外されました。

季節は春へと進み、文化交流拠点施設も 11 月オープンをめざし、日に日にその姿を現しています。

「学びの杜ののいち カレード」、名称は「学びの杜ののいち」、愛称は「カレード」。文化交流拠点施設の愛称に 199 点の公募があり、そのなかから選ばれました。英語で「万華鏡」を意味する「カレードスコープ」に由来し、ギリシャ語では「美しい形」の意味もあります。野々市市の新しい図書館は、たくさんの本と、それぞれに個性を持った市民の皆さんによって、万華鏡のようにきらめきを放つ。本と人、人と人の出会いによって市民が光り輝き、野々市が美しくにぎわう。「カレード」はそのようなイメージです。

完成までにはもう少し時間がかかりますが、一部のフェンスには小学生の皆さんの絵も飾られています。工事の進み具合をながめながら、期待感を高めていただければと思っております。

さて、いよいよ「第 27 回全国椿サミット野々市大会」が迫ってきました。市民の皆さんからもいろいろな形でご協力をいただいております。順調に準備が進んでいます。

そんななか、先月 16 日、本市在住の蒔絵作家で人間国宝の中野孝一さんから、ツバキの原木から創りだされた水指みずさしをご寄贈いただきました。この水指は、文化会館にあった樹齢 200 年ともいわれるツバキの大木

「白侘助しろわびすけ」が、平成 25 年に枯れてしまったため、伐採した原木を中野さんに取り次ぎいただき、木工芸の人間国宝である加賀市在住の川北良造さんが木地挽きをされたものです。その後、中野さんが約 30 回にわたり黒漆を塗り重ね制作されました。

3 年間の歳月を要して創り出されたこの作品が箱から出された瞬間、美しい、と思いました。普通は枯れた原木での作品は創らないということも、このとき中野さんからお聴きしたのですが、お二人の人間国宝により新しい命を吹き込まれ、「水指白侘助」と命名されました。美しい木目を活かしたこの作品をサミット開催期間中に会場に展示する予定です。

平成 25 年 2 月の椿サミット沖縄大会で、今回の大会の内定をいただき、それ以来、実行委員会を立ち上げ、椿愛好会、椿ののいち生産組合、日本ツバキ協会野々市支部の皆さんとともに準備を進めてまいりました。他にも、ののいち里まち倶楽部や関係する団体の皆さんに、それぞれのお立場で関わっていただきます。ようやく、この大会の開催を迎えることができます。

古くからの歴史が続く由緒あるまちが、これからの未来に、さらにはばたくことを願い、この地で多くの人々と椿を介して集い、語り合い、ともに過ごす「朱鷺色の時間」。全国に本市のすばらしさを発信できる時間（とき）となることを願っております。